

## 島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	当院における後腹膜鏡下腎摘除術の臨床的検討—肥満が手術結果に及ぼす影響について—
研究期間	2020年8月14日 ～ 2026年12月31日
対象患者	後腹膜到達法で腹腔鏡下腎摘除術を実施した患者さん
対象期間	2016年9月1日 ～ 2026年3月31日
研究機関の名称	島根県立中央病院
実施診療科	泌尿器科
研究責任者	吉野 干城
意義・目的	<p>開腹手術だけでなく、腹腔鏡手術においても、肥満が手術難度（具体的には手術時間、出血量、合併症など）と正の相関を示すことが報告されています。肥満度の指標として使用されているのは大多数が体格指数（BMI）ですが、手術難度に関連する肥満の指標としては不完全とする意見があります。一方、内臓脂肪面積（VFA）はBMIより優れたパラメーターとしての報告がありますが、腹腔鏡下腎摘除術の手術結果とVFAとの相関を評価した報告は少ないです。</p> <p>本研究では、腹腔鏡下腎摘除術への肥満の影響評価において、BMIとVFAのいずれが肥満の指標として妥当か検討することを目的とし、これにより肥満に備えた術前準備を実施する目安となり、手術の安全性を高める事前準備につながると推測されます。</p>
研究の方法 （試料・情報の利用 方法・他施設への提 供方法を含む）	電子カルテを利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す内容を抽出します。抽出データに基づき、BMIに関しては25.0未満（正常群）と25.0以上（高値群）に分け、VFAは100未満（正常群）と100以上（高値群）に分類します。BMI、VFA各々の両群における患者背景、手術および術後因子、手術合併症について解析を行います。
利用する試料・情報 の項目	<p>【患者背景】年齢、性別、アメリカ麻酔科学会術前リスク分類、患側、腎腫瘍の場合は腫瘍径、腎動脈の本数、腎静脈の本数、BMI、VFA</p> <p>【手術因子】気腹時間、出血量、摘出組織重量</p> <p>【術後因子】術後経口摂取開始までの日数、術後歩行開始までの日数、術後入院日数、手術合併症 等</p>
試料・情報の	試料・情報の他施設への提供 あり・なし

提供の有無	(ありの場合、海外の施設への提供 あり・なし)
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	口演や論文にて発表予定。
備考	

\*\*\*\*\* お問い合わせ先 \*\*\*\*\*

島根県立中央病院

泌尿器科 吉野 干城

電話：0853 - 22 - 5111

\*\*\*\*\*